



BAIEIDO-TSUSHIN

梅栄堂通信

Vol.47

'06夏・秋号

GREEN TEA SCENTED INCENSE STICKS

緑茶の効用をお線香に生かしました。

煎香茶[®]

せんこうちゃ

■緑茶の香りのお線香

緑茶には健康に役立つ数々の成分が含まれています。
梅栄堂は、中でもフラボノイドの「消臭効果」と
テアニンの「リラックス効果」に着目、
技術を駆使して緑茶をお線香に練り込みました。
「煎香茶」は煙もひかえめ、お部屋焚きとして、
さわやかな空間づくりにお役立てください。



●煎香茶/標準小売価格 1,050円
(本体価格 1,000円)



創業三百有余年

梅栄堂

〒590-0943 堺市堺区車之町東1丁1番4号
TEL 072(229)4545(代) FAX 072(227)1672
ホームページURL <http://www.baieido.co.jp>



▲厳重に管理されている白檀の貯木場

インド 白檀オークション 現地報告

インド白檀の価格がここ数年間、高騰を続けています。その現状を調査する為、平成十八年二月二十五日にタミルナドゥ州セーラムで開かれた政府主催のオークションに弊社仕入先の担当者が訪問参加し、情報を得ましたので掲載させていただきます。

インドの南部、タミルナドゥ州の州都はチェンナイ。以前は、マドラスと呼ばれ東インド会社の時代にはヨーロッパとの交易の拠点となった所です。今回の目的地セーラムはチェンナイからさらに内陸部約四百キロに入った所にあります。

厳しいインド白檀の現状

一月二十三日。チェンナイ森林局副局長を訪問。氏の話によれば、今回のオークションでの白檀出展予定は二百トン余り。現在、白檀が著しく減少

して、この規模のオークションも近いうちに開催が危ぶまれているとのこと。白檀の植林は行われているものの、成木に育つまでには最低でも十五年以上を要し、まだまだ市場には出てこない。白檀の産地はカルナタカ州、アンドラプラデーシュ州、タミルナドゥ州、ケララ州があるが、現在オークションを実施しているのはここタミルナドゥ州のみであり、カルナタカなど他の地域の業者もタミルナドゥのオークションで品物の調達をしているとの話でした。次に訪れた白檀輸出商社訪問でも同様の話が出て、やはり白檀の厳しい現状を実感しました。このような状況からオークションは、従来は三ヶ所の貯木場が多いとき六ヶ月あたり二千トンが取引されましたが、現在

では一カ所の貯木場でしか開かれず、数量も六ヶ月あたり二百トン程度の扱い。原料が著しく少なくなっているのがよくわかります。

オークションの地、セーラムへ

一月二十四日。一夜明けていよいよセーラムへ向けて出発。途中食事も含め片道八時間の道のりは、日本とは違い、走っても走っても山などは見当たらず変化のない道が続きます。ハイウェイといっても牛、ヤギなどが道端を堂々と歩き、道路も大雨などの時に傷ついたのかガタガタ。そんな道を運転手は飛ばして走ります。後ろに乗っている身としてはヒヤヒヤし通しで、



◀世界第2位の営業距離を誇るインドの鉄道



四季彩々

色とりどりに咲き乱れる伊吹山のお花畑

お花を愛でながら、雄大な景色も楽しめます。

標高一三七七メートルの伊吹山は、滋賀県と岐阜県の県境に位置します。山頂からは、晴れた日には、眼下に琵琶湖、北に若狭湾、南に伊勢湾を望むことができ、日本百名山の一つにも数えられています。とりわけ、七月下旬から八月上旬、伊吹山頂上付近はシモツケソウを始め、イブキフウロ、イブクレイジンソウ、ルリトラノオ、コオニユリなど様々な花が咲き乱れ、素晴らしいお花畑が出現します。伊吹山は近畿からも中部からも近いこともあって、夏休みに多くのハイカーがこのお花畑を訪

れます。日本海側気候と太平洋側気候が入り混じる伊吹山には、この気候により育まれた約千種類もの植物が確認されています。また、伊吹山だけに自生する植物も多く、二〇〇二年にはその貴重な植物分布が認められ、国の天然記念物に指定されました。お花畑には登山口から登ることも可能ですが、伊吹山のドライブウェイの終点(九合目)に駐車場があり、ここから始まる遊歩道で頂上を目指すのが一般的です。ルートとしては、よく整備された西遊歩道を登り、東遊歩道を下る(約一時間半)コースが比較的歩きやすく、また、色とりどりに咲き揃うお花畑を堪能できるお勧めのコースです。



- 花期 7月下旬～8月上旬
- アクセス 名神高速道路関ヶ原ICから伊吹山ドライブウェイ経由約20km JR関ヶ原駅より名阪近鉄バス50分終点下車
- 連絡先 伊吹町役場 企画観光課 0749-58-1121

伊吹山は約三億年前、赤道付近で海底火山として誕生、山頂付近にできたサンゴ礁が長年を経て石灰石へと形を変え、その後のプレートの移動で現在の伊吹山が出現したと考えられています。そのため、伊吹山の大部分は石灰岩でできています。足元には十分気をつけて、安全で楽しいハイキングを楽しみたいものです。



香材についての
最新情報

India



府が付けたスタート値は前回の二十%アップらしく、納得しました。このようにして次々にオークション



▲ちょっと活気の乏しかった今回のオークション

ービスされました。出展は二百トンの予定が二十トン増えて二百二十トンとなったようです。Roottファーストクラスからのスタートは、思わぬ高値のコールで始まりました。値付けはなし。その後、トン当たり二十万ルピー程下げたが、誰も値付けせず、取引なし。Roottセカンドも、やはり初値から十万里ピー下げたが、値がつかず成立せず。続いてRoottサード

も掛け声はありませんでした。聞くところによると、政

府が付けたスタート値は前回の二十%アップらしく、納得しました。このようにして

次々にオークション

間ほどで空港に到着、事なきを得ました。
*注 Roott
白檀木の根の部分。香りが濃厚なので線香の原料に適している。



▲町中での庶民の“足”、オートリクシャ

今回のインドセーラムのオークション調査の旅を経験して、インドの白檀の現状と、インド政府の厳しい輸出規制について学びました。輸出については、オークションで落札した物で、なおかつ二片五十グラム以下のサイズに再加工した物のみが許可されます。そのままのRoott、丸太は輸出禁止であるため、品質の良い材料がますます手に入りにくくなっています。最近の政府主催のオークションでは過去に経験のないぐらゐの上昇幅で、継続的に価格を上げようとしています。日本には、白檀をこよなく愛し、使用して来た歴史と文化があるわけですが、この文化を大切にしてい

私達の課題だと強く感じました。

最高級の白檀 (Jajpokal ファーストクラス) ▶



手に汗握る思いでした。唯一、途中五ルピー(安い)で買って食べたヤシのおいしかったこと。果汁を飲んだ後、実をナタで割って食べて中の白い部分を削り取って食べるのですが、それがまたおいしく、や

つと生き返った気がしました。

午後四時、セーラム森林局を訪問後、白檀の加工場の貯木場の下見。ここは見るとに厳重に管理されています。壁の上には盗難防止のためのガラスや電気線、見張り塔、訓練の行き届いた番犬。さらに商品には保険をかけていると、盗難や火事にも備えている様子がうかがえました。各種グレードの加工中の白檀の中には芯材や、さらに、よりグレードの高い白檀が見受けられ、赤

茶色の素晴らしい木肌を見せている良質のものが並べられていました。その後オークション会場の貯木場を下見。明日のオークションに向け、電灯のない倉庫では懐中電灯を照らしながら、遅くまで作業員による搬入作業が続けられていました。

白檀のオークションのルールとは：

今回は各種全部で二百トンの出展だが、各ロットは一〜五トン。ロット毎に政府が決めた最低価格からスタートします。入札者が価格を値付けしていき最高値の人に落札します。オークションの入場料は一人二千百ルピー、入札するには十万里ルピーの預託金が必要。商品の取り引き時に残りの差額を清算します。白檀のグレード分けは徐々に細分化され、現



▲無数の神様が彫りこまれたヒンズー寺院のゴープラム(塔門)

在は十九種余りになっています。輸出規制もかなり厳しく、小さく再加工したもののみ許可され、合計十二・六%の税金が課せられます。

いよいよオークション始まる

一月二十五日、私達もオークションの資料を手に入れるため登録。参加したのは約二十社、三十人ぐらゐ。十時開始の予定が二時間遅れのスタートとなり、その間、主催者側からミネラルウォーターやクッキーがサ



緑茶には香りの成分のほかにも、多くの有効成分が含まれています。中でも最近話題を集めているのは、抗酸化作用のあるカテキン類、肥満予防のサポニン、消臭効果のあるフラボノイド、リラックス効果が期待できるテアニンなど、数え上げたらきりがありません。

長寿世界一の日本ですが、毎日飲み続けている緑茶が大きな力を発揮しているのではないのでしょうか。

梅栄堂 香りの文献

日本人の暮らしに
欠かせない

緑茶

数々の有効成分が
話題を呼んでいます。



茶の木は、元来国内に自生していたという説と、中国から渡来したという説がありますが、現在は渡来説のほうが有力視されています。

古くは『日本後記』において、はじめて登場する茶ですが、時代を経て鎌倉時代、臨済宗開祖の栄西が宋の国から持ち帰り育て、また『喫茶養生記』を著し、お茶の普及に努めました。その後お茶は禅宗との結びつきから、茶道という日本独自の文化を誕生させることになりました。

一方、現在我々が一般的に飲んでいる煎茶は江戸時代に定着したものです。日本茶は緑茶ですが、紅茶もウーロン茶も茶に変わりなく植物学的には同一種。それぞれ産地によって多少の違いはありますが、その製法によって味も香りも

全く違ったものになります。紅茶は完全発酵茶、ウーロン茶は半発酵茶と呼ばれるのに対し日本の緑茶は茶葉の収穫後、新鮮な状態で蒸し、酵素の働きを停止させ保存を可能にした、不発酵茶と呼ばれています。緑茶の香り成分は次々と見い出され、今や六百種類以上の香りの化合物が認められています。それらの香り成分が微妙なバランスを保ちながら、緑茶独特の香りを醸し出しているのです。

●商品紹介

沈香を基調にした超高級品シリーズ、 装いも新たに登場。

明暦三年（一六五七年）沈香屋作兵衛の名で創業いたしました。以来の伝統と技を生かし、丹念に作り上げた超高級お線香シリーズ。従来どおりの各種本格桐箱詰めはそのままだけより上品で格調高い外箱をご用意いたしました。二種詰め、三種詰めも取り揃えております。どちら様にも自信をもってお勧めできるお品でございます。ぜひ、お届けものとしてご利用下さいませ。



- 特撰孔子木 15,750円
- 特撰薫昇 3,150円
- 特撰九重 1,890円
- 特撰香苑 5,250円
- 特撰鳳龍 2,100円

●話題

「中小企業懸賞論文」で受賞

第十九回を迎えた財団法人商

部門で準賞を受賞いたしました。内容は老舗企業の弊社が過去の伝統に縛られず、若くして事業を引き継いだ中田信浩社長主導で、斬新なヒット商品『残香飛』などを開発したという事例を、マーケティングの観点から分析し、老舗企業の経営革新について考察した論文です。

堺市が政令指定都市に

二〇〇六年四月、堺市が政令指定都市に指定されるのを前にして、テレビ大阪（十一月

三日）では、『寛平、靖の自転車キャラバンIN堺』と題し、『堺の観光マップ』作りに参加しながら、堺市の魅力をアピールする番組を企画。関西お笑い界の人気者、間寛平が隊長となつて総勢五人のキャラ

工総合研究所（商工中金）主催の「中小企業懸賞論文」で、弊社営業部長の中田信也が産業

バン隊を結成し、堺市の主な観光スポットを自転車で訪問しました。まず「自転車博物館」で堺の工業製品である自転車を調達し、「千利休の誕生の地」や、子供達の夢の空間「ビッグバン」をはじめ、地場産業であるお線香の老舗としての「梅栄堂」や、新鮮な魚介類で活気が溢れる「とれとれ市」などを次々に巡り、堺の魅力を強くアピールしました。

ABCラジオ

『全力投球！妹尾和夫です。』

同番組は、スタジオとのリリース放送。中田社長とレポーターとの間では、三十五年引き継がれてきた伝統のお線香と、時代時代に必要とされるお線香について、「香りの談義」に花が咲きました。